

令和3年度 第2回大阪市障がい者施策推進協議会障がい者計画策定・推進部会
議事録

日 時 : 令和4年3月7日(月) 午前10時から午前11時30分まで
会 場 : 大阪市役所 屋上階P1 共通会議室
出席委員 : 三田(優) 部会長、井上副部会長、浅井委員(Web)、芦田委員、大野委員、
京谷委員(Web)、倉田委員、酒井(京) 委員、酒井(大) 委員、三田(康)
委員、大東委員(Web)、西委員(Web)、長谷川委員、福田委員、星沢委員、
前野委員(Web)、松本委員、溝上委員、山内委員(Web)、山梨委員

司会(障がい福祉課 村田) <開会>
松村障がい者施策部長 <あいさつ>
司会(障がい福祉課 村田) <出席者紹介、資料説明等>

三田(優) 部会長

- ・議題1「令和4年度大阪市障がい者等基礎調査について、事務局から説明をお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<議題1 資料1-1 説明>

三田(優) 部会長

- ・ご質問、ご意見いかがでしょうか。

倉田委員

- ・資料1-1、3ページに有効回収率38.4%とありますが、回収率をどのように評価されているのでしょうか。
- ・50%を下回っており、38.4%は低いと思っています。

山本障がい福祉課長代理

- ・38.4%は低いように感じますが、一般的なアンケートの統計では、少し高い数字であり、無作為抽出の場合、回収率は20%前後が標準と聞いております。
- ・ただ、38%で良いということではなく、より皆さんに広く回答がいただけるような方法も考えていきたいと思っています。

三田(優) 部会長

- ・せっかくの調査ですから、回収率が低いのはどうかというご意見です。
- ・ワーキングのメンバーも多くの皆さんに回答してほしいと思っております。
- ・私自身は、回収率はそんなに低くないような実感もあり、より多く回答していただくにはどうしたら良いのか、委員の中で実際に回答した経験があったり、調査票を見て長過ぎるとか、分かりにくいなどのご意見をワーキングの際にいただければと思います。

酒井（大）委員

- ・基礎調査について、今回もこれまでと同様の流れということで理解をしていますし、異論はありませんが、これから先のことを考えていくにあたり、先ほど回収率についてのお話もありましたが、回収率が低いか高いかは別にして、調査をされる方もやはり負担がある訳ですので、毎回同じボリュームのものを同じようにするのか、2回に1回は全体を網羅するような調査を行い、間の1回はもう少しコンパクトにまとめるとか、定量調査は2回に1回にして、間の1回は定性調査で、グループインタビュー等でニーズをもう一度整理するなど、やり方を工夫する余地があるのではないかと思います、意見として申し上げます。

三田（優）部会長

- ・今回は、オンラインでの回収もやってみるとのことですので、回収率にどう反映するのか、回収率が全く変わらなかった場合には、また考えなければいけないと思っています。

松本委員

- ・基礎調査ですが、難病患者も対象に入っているのでしょうか。
- ・前回調査された時も、難病患者を対象にした調査は少なかったように思います。障害者総合支援法にも難病患者は含まれていなくて、その他の心身に障がいをもつ、日常生活に障がいを持つ人となっており、私どもはJPAを通じ、ぜひ障害者総合支援法に難病患者も入れて欲しいということはっきり要望書を出し申し上げております。障がいのある方と難病患者とは少し様子が違うように思いますので、難病患者独自の調査にご配慮いただきたいと思っています。

山本障がい福祉課長代理

- ・難病の方を対象とした調査は、前回も行っておりますし、引き続き実施していきたいと考えています。
- ・本人用の調査票でも、難病の患者さんも含め、生活上で困っていることなどを炙り出していけるよう調査を考えております。引き続き、ご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。
- ・改めて提案させていただきたいのですが、ワーキングの委員です。資料1-2をご覧ください。

- ・こちらが事務局の案ですが、本来なら、部会の皆さん全員に参加していただきたいところですが、限られた時間、多数の会議ということもございますので、このメンバーでワーキング会議を開催してはどうかとご提案いたします。

三田（優） 部会長

- ・ワーキンググループを作ること、メンバー案についても、ご意見、ご質問があればお願いします。
- ・他にも入りたいという方がいらっしゃれば、立候補していただけますか。
- ・提案どおりお認めいただいたということでよろしいでしょうか。
- ・ワーキング委員の方は、厳しい会議日程が続きますが、よろしく願いいたします。
- ・日程については、今後事務局から個別に調整の連絡があると思いますので、お願いします。
- ・続きまして、その他、報告事項（１）大阪市障がい者支援計画・第６期障がい福祉計画、第２期障がい児福祉計画の推進、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取組について、事務局から報告をお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<その他 報告事項（１） 資料２ 説明>

三田（優） 部会長

- ・前回会議でも、皆さんから多数のコロナ禍の大変な状況や意見が出て、現在も続いている状況で、計画でも触れないわけにはいかないし、どう付き合っていくかを考えていくことが大事と思っています。
- ・行政も手探りでやってきた中で、かなり控え目に報告いただきましたが、このくらいは対応されたということをご報告いただきました。
- ・ただ、計画とどう繋がるかとか、皆さんからこういう所が抜けているのではないかなどについて、少し時間を取りたいと思いますのでご意見いただければと思います。

大野委員

- ・私の元には、家族会のメンバーから様々な心配が寄せられております。区役所で陽性反応が出ているにも拘らず、どこで治療するのかという連絡が一切ない。１週間経っても保健福祉センターから判定後の連絡がない。それから自宅療養の方も自宅療養に関わる物資が届かない。これも１週間以上届かないということです。機能不全が起きているのではないのでしょうか。
- ・私たちがお願いしたいのは、高齢者や精神障がい者にとってコロナを早期治療に結びつけるということ。まずはPCR検査を早期に実施し、その結果で早期に軽症の段階で医療に繋げるということが一番大事だと思います。保健福祉センター・保健所の機能不全に関し、

大阪市はどのように認識しておられるのかお聞かせください。

三田（優） 部会長

- ・大野委員に一つ質問ですが、おっしゃられたことに加え、例えば精神障がい者だから故に余計に放置されたなどの事例も聞かれていますか。

大野委員

- ・それは直接そうではないのですが、今の事例は高齢者・精神障がいを持った人の家族の事案です。
- ・一般市民向けのシステムが機能不全の場合、ましてや障がい者・精神障がい者にとって使えるようなシステムに成り得るのかを皆、大変懸念しています。
- ・家族内で自宅待機となれば、自宅内感染は必定ですので、こういう思慮或いは指示が遅れるという現状が、何らかの形で前向きに解消されていかない限り、障がい者にとって、もっと辛いことになるだろうと、お願いしてほしいと頼まれ、本日やって参りました。

倉田委員

- ・精神科病院において、面会制限が出されているということで、患者さんが家族と長い間会えないなど、大変苦しんでおられる状況があります。
- ・私は大阪精神医療人権センターでボランティア活動員としても参加しており、その中でオンライン面会に協力いただける精神科病院において、オンライン面会を実施していますが、なかなか協力して下さる病院も少ないということで、誰とも何日も話をしてない人がいらっしゃる問題があります。
- ・この計画において、そこをどうして欲しいという要望を具体的に言いにくいのですが、オンラインにはタブレットや通信環境が必要で、インフラ的なハードルが高いので、まだまだオンライン面会を許可いただける病院が少なく、そのあたりを何とか市にも協力いただければと思い意見させていただきました。

三田（優） 部会長

- ・オンラインであっても後ろにスタッフがいるかも知れませんが、プライバシーがどうかということですね。
- ・精神科病院の閉鎖性が、より強まっているのではないかということですかね。

三田（康） 委員

- ・私達の対象者は、重度の知的障がいを併せ持っていらっしゃる方ということで、課題として捉えていただいていますように、介護者は親御さんが中心になっておられますが、その介護者である親御さんが入院しなければならなくなった場合の対応について、未だ明確

な形というのが示されていないところも不安が非常に大きく、最初の頃は、本当に隔離が必要だからということで、余裕があったらかもしれませんが、個別に対応していただけたと言っていたおりましたが、最近ですと親御さんも重症でなければずっと家で一緒に看ていてくださいといった形になっており、解決した訳でもなく課題を抱えたまま不安な毎日送られておられるということがあります。今後、例えば医療型短期入所であるとか、そういったところの充実を含めて対応を可能とするような対策をとっていただきたいという思いがあります。

- また、グループホームでなんとか暮らされている方も、入院も出来ない状態で、本人が陽性で自宅療養になった場合、スタッフもなかなか難しい状況の中で、せめて設備であるとか、対応だけでも充実させることができるようなことを今後考えていただけたらいいような、そんな計画に基づいてやっていただければと思っています。
- また、ワクチン接種については、今回のオミクロンについては少し状況が異なりますので、今後のことの話になるかもしれませんが、今回は、高齢者のリスクが高いということで、当然そちらを優先しスタッフ含めワクチンの接種は行われていると思います。障がい分野に関してのスタッフの優先接種は、1回目2回目はありましたが、今回は特に高齢者についてのリスクが高いということで、それで良いとは思いますが、今後はそのようなことばかりは言えないと思うし、障がい分野も同じように関わっているスタッフなどを優先的に考えていただかないと、サポートに入ることができないという怖さがあります。ぜひ、検討していただきたい。
- 質問として、4ページに記載がある今回進んだ点で「基幹相談支援センターを通じて事業者間で連携対応していく体制ができた」と書いているので、例えば具体的にどのような体制ができたのかを教えてください。

芦田委員

- 利用者が陽性でホテル療養や病院での療養ができず、自宅での療養が余儀なくされている場合、介護者はギリギリの人員の中で入っており、本来であれば陽性や濃厚接触者でない者がいけば良いのですが、そうすると現場の人が足りないということで、陽性者に陽性者又は濃厚接触者が介助者として入っていくという「陽々介護」といったことが現場では起こっています。
- どうしても病院に入院できないと複数の主治医に連絡を入れた際に、夜間・休日に訪問してくださるコロナに関しての医療部隊があるようで、そこに繋いでいただいたということです。そういう医療チームの存在がもう少し公になっていけば良いということと、職員も陽性・濃厚接触者になり、どうしても事業所を開くことができない中で、もちろん閉所でも訪問はしますが、日中活動で皆さんと一緒に楽しく過ごされている中で、1週間なりを自宅に在ることにより、精神的な症状が悪化され、非常に落ち着いておられた方が少し混乱をした、その混乱も少し引っ張っているというような影響がありました。

山内委員

- ・2ページ一番上の陽性者報告の数字について、令和4年の1月末までのデータですが、例えば2月末時点など、これ以降の数字を分かる範囲で教えていただきたいと思います。

三田（優） 部会長

- ・山内委員、事業所の方で何かコロナ禍での課題やこういうところは助かったなど一言いただければと思います。

山内委員

- ・言い始めると、終わりません。

三田（優） 部会長

- ・質問として、1月以降の陽性者報告について知りたいということです。

長谷川委員

- ・施設での感染は、職員さんが頑張って、人員不足による交代もしながら取り組んでいただいておりますが、家族内で感染した場合、知的障がいがあると、どうしても本人を1人で入院させるとなると、お母さん・お父さんが踏ん切れず、例えば家族3人で両親が陽性になられ、お子さんだけが濃厚接触者で陰性となった場合は、一緒にホテル療養をしようと思ってもできず、どちらかが残り対応したという方がおられました。応援職員の派遣の項目に介護者が不在となった場合に介護が必要な障がい者への支援をされたと記載がありますが、そういう事が身近なところでは全然感じられなかったというか、家族で何とかしなければいけないという思いがあったので、このような支援が届いていないのではないかと感じられました。
- ・濃厚接触者で陰性だった場合でも、ショートステイも断られますし、かといって療養施設にも行けませんし、一方で濃厚接触者ですのでお家でのケアにも入ってもらえないという少し宙ぶらりんなような感じになり、すごく困られて、両親が1人残って対応したということでした。あまりうまく機能していなかったのかなと思いました。
- ・知的障がい者に対するワクチン接種ですが、国は優先順位の上位に挙げていたと思いますが、実際には接種券が届くまでは打てなかったということがありました。優先順位を国で謳ってもらっても現場には全然届いてこなかったということがあります。
- ・大阪市の場合はそうでしたが、他の市では優先で接種券が配られ、接種できたところもありますので、しっかり対応いただけるとありがたいと思いました。

福田委員

- ・ワクチンのことですが、日本自閉症協会も、療育手帳の方は早くから打つことができるとおっしゃっていましたが、接種券がなかなか届かず8月の終わり頃ようやく打てることになりました。大阪市は、当初区民センターで接種することが多かったことが少し遅れた原因ではないかということと、接種券を貰った時に、地域のかかりつけ医ではできないと言われ、接種場所を探すのに苦労したという現状がありました。
- ・見守り隊や地域の見守り員さん達が、探してくださったりしましたが、結局は施設の家族会の親御さんが医師でしたので、そこで打ってもらうこととなりました。発達障がいには感覚過敏があるので、怖がる方もいらっしゃるし、ニュースなどで後遺症のことを色々おっしゃるので、親も怖がり、打たせないというところもありました。協会としては是非打って下さいというお知らせを皆さんに配り、打つことになりましたが、最初の後遺症の話が無い時に打っていれば、もう少し円滑に打てたと思いますし、接種医を探すのが、本当にしんどかったという感想です。
- ・3回目は同じ所で打ってもらえることは約束されていますので、接種券が来るまで待とうと思っていますが、やはり最初の頃というのはそのあたりが不安でした。親御さんも不安になり過ぎて、色々心配される発達障がいの方もいらっしゃるのでは、もう少しきちんと説明していただければありがたいと思いました。

溝上委員

- ・今回は、初めての事や予想外の事が生じる中で致し方ない面はあったとは思いますが、発達障がいの方は、見通しが立たないことに対する不安や急な変化を受け入れにくいところがあり、最初の緊急事態宣言から始まり、急に予定が変更になることがかなり生じ、その見通しもいつまでなのかを教えることができない状況でした。
- ・学校関係では、行かなくても良いということで、気分的に楽になったお子さんもいらっしゃいました。逆に再開した時に不安が大きくなり、ゆっくりと増やしていくことができれば良いのですが、それも難しく、楽しみにしていたイベントが無くなったことによりゲーム依存みたいになってしまったお子さんもいらっしゃいます。
- ・一方で、蔓延防止が出ているのにカラオケや遊びに行ってしまう、親としては止めるに止められないなどの様々な不安がある中で、やはり親としても少し繋がっていて色々な話を聞き、少しずつ受け入れることや良い方法を考えることも必要と感じています。

酒井（京）委員

- ・先ほどの説明にもありましたが、企業の採用活動が激減したために新規就職等が困難であることが記載されております。
- ・厚生労働省の発表しているデータでも、ハローワークを通じた新規職業紹介は12%減と示されています。例えば宿泊業や飲食・サービス業についてはかなり減っていますが、一方、物流等はすごく増えていたりもします。令和3年3月1日には雇用率が0.1%引き上

げられていますので、現場の実感としては激減という感じではなく、求人は引き続きあるものの、職場実習等のこれまで行っていたことがストップしていることが挙げられます。

- その中で、この進んだ点にもあるように、福祉事業所や施設のICT導入モデル事業で、ICT化が進んだということで、就労系サービスの事業所においてもICTを導入した事業展開を行っている事業所も多いように思います。ただ、それを導入しているところと全くICT化に取り組んでいないところの格差が出てきているように思いますので、このモデル事業でICTを上手く使い、就労支援等の支援をされているような好事例の紹介等を行い、まだ導入してない、出来ていない、取組めていない事業所にもICTを活用し、コロナ禍においてもサービス継続ができるように普及させていければ良いのではないかと思います。

三田（優） 部会長

- 皆さんから貴重な情報というか、少し悲鳴的なものもあると思いますが、教えていただきありがとうございます。
- オンラインの方で発言希望はおられないでしょうか。

井上委員

- 今回の状況で、医療の切迫ということで、医療従事者の方達に対してはワクチン接種等の配慮はありましたが、実は福祉の関係はそういう配慮や指導・指示が全く無く、先ほど、芦田委員がおっしゃられたように、「陽々介護」するしかないというような状況であり、本当に職員の方も疲弊しきっているということ。コロナ対策の中で福祉現場の職員はどのような役割で、そのことに対して公的にどのような支援が必要なのか、もう少し明確に行政が援助や指導をしていく、或いは人のバックアップをしていくという仕組みを作らなければ、家族しかいない場合にショートが利用できるのかということ濃厚接触者はショートを利用することができない。
- そういう人が利用できるよう、どのように機能させるかということの本気で考えなければ、後ほど提案のある、地域生活支援拠点もほとんど機能してなかったと思いますし、機能させようがないのです。
- そのあたりがどうなのかについては、もう少し実態を把握し対応策を考えていく必要があるのではないかと思います。福祉現場をどう守り、その役割をどう果たせるようにしていくのか、ある意味、保健所が崩壊している中で、在宅療養をしている人達のフォローは福祉現場である事業所が行っています。
- しかしながら、そういう位置付けも指導も援助も全然されていないという状況で、暮らしをどう守っていくのか、外出をどう守っていくのが底抜けになっているのが実態ではないかと思っています。
- 調べていただきたいのは、休業により事業所がもたない、ヘルパーが来ないという中で、

事業所が閉鎖している実態等は無いかということをお教えいただきたい。

- ・もうこれ以上は経営できない、或いはヘルパーが集まらないという話をよく聞いており、事業所も悲鳴をあげていると思いますので、そのあたりの実態をどのように把握しておられるのかお教えいただきたい。
- ・山内委員、他で強調しておく事は無いでしょうか。

山内委員

- ・時間もないので、ありません。

三田（優） 部会長

- ・様々なご意見やご質問が出ましたが、多分全てに答えることは難しいかと思っています。
- ・それらを踏まえたコメントと、先ほど三田委員が言われた進んだ点の3点目の介護者が不在となった場合、基幹相談支援センターを通じ事業所間で連携対応していく体制ができたというのは、私も聞いてみたいところですので、どの様なものなのかお教えいただければと思います。

山本障がい福祉課長代理

- ・いただきました大変貴重なご意見は議事録にも残しながら、また整理もして次のワーキング等に活かしていきたいと思っています。
- ・ご質問ですが、事業所間で連携する体制ができたと記載しておりますが、日々のどうしようもない、どうしようという事でご相談をいただきながら、先ほど、井上委員がおっしゃられましたように、事務所の職員さんが本当に頑張ってください、関係を作っていく中で、何とかこういう時にはこうしていこうという体制もできたということをお聞きしております。行政もそこに入って、1人で困っている人のために何とか見てもらえないかという願いもしてきました。
- ・そうした中で、事業所からは部屋を用意したので困った際にはここを使っても良いと言ってもらえたり、或いは、府はグリーンゾーンの応援体制は作っていますが、レッドゾーンはなかなか応援には行けないという仕組みの中で、我々もアンケートを行い、レッドゾーンでも行ってくださる事業所を調査し、何とかご協力をお願いしたいしました。そういった仕組みと言いますか、そういったことを積み上げた中で、体制としてしっかり文書に記したものではありませんが、そういった事案の積み重ねが日々の繋がりの中で生まれてきたという趣旨で記載しております。
- ・2月の陽性者数と事業所閉鎖の実態につきましては、運営指導課より回答申し上げたいと思っています。

三田（優） 部会長

- ・2月のデータは、また、ご連絡いただければと思います。
- ・私が感じておりますのは、計画に直接関係あるかどうかはわかりませんが、対応に追われて権利侵害の点が疎かというか、見過ごされているような事例があるのではないかと実感しております。例えば、多数のグループホームを運営している株式会社や法人で、感染を恐れて通達が出され外出禁止になり、本人に一切の説明もなく土日のガイドヘルパーも全部キャンセル、作業所等も休みになり、ずっとホームにしかいられないということで、誰だってストレスが溜まると思いますが、一律管理が横行しており、権利侵害が相当進んでいると私は思っています。
- ・そこに何もメスが入らないし、本人は権利侵害だとは思ってなくて、我慢しています。
- ・職員が感染したら回らなくなる不安ばかりが優先され、大型の入所施設に近いのではないかとというくらい、グループホームが管理でがんじがらめになっている状況に私自身直面することが多いです。感染者が生じた場合、誰が責任をとるのかと言われ、話がなかなか進みません。
- ・利用者がここにいられなくなるのではないかとというくらい耐えに耐えている状況があり、そういうところにどうやって繋がるのかというか、気が付いた人が繋げないといけないというところまで余裕が無い。感染も防がなければなりません、権利侵害ではないかと思われるところは、表に出していくような仕組みを作っていかなければなりません。せっかく地域移行したのに地域の中でがんじがらめだということを感じました。
- ・コロナとどう付き合っていくかを念頭に置いて、計画の中でも反映させていきたいと思っております。
- ・その他、報告事項（2）地域生活支援拠点等における体験の機会が機能の整備について、事務局からご説明をお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<その他 報告事項（2） 資料3 説明>

三田（優） 部会長

- ・今のご説明にご質問・ご意見いかがでしょうか。

三田（康） 委員

- ・こうした体験利用は、非常に重要で必要なことと感じておりますが、その前に、まずはその受け皿であるグループホームや地域生活の支援の整備が一番重要なところであると思います。グループホームは本当に整備されているのか、特に重度の方で介護度が高い方にとっての設備を含めた内容の充実は、非常に課題ではないかと感じています。
- ・今回の新型コロナウイルス感染症もそうですが、緊急対応ができる設備を持ったグループホーム等での対応や、或いはその面的な整備ということであれば、そういった緊急時

の対応をどういう形にするのかを明確にしていく必要があるのではないかと、先ほど質問させていただいた連携が取れているケースというのが具体的にあれば参考になると思ってお聞きしました。

- ・私達の周りでも、コロナに関してもそうですが、本当に苦しいながらも、感染症を抑えながら、「陽々介護」のような状態で、或いは濃厚接触という状態でありながら、介護に回るといふ様なことも含め、やらざるを得ないから行っているという工夫は、現場の方では本当にもう、何か怖いものを覚悟しながらやっているという実態があります。
- ・問題は、親御さんは子どもさんに命懸けみたいなのところがあり、介護者が本当にそこまでやれるのか、これからもそれで良いのかと考えると、やはり整然とやっていくためには、設備なり受け皿なりを設けなければならない。当然ながら、面的整備ということですので、一つのところで全部賄うということではないとした場合、対処できる仕組み、或いはそういった受け皿を設けていただかなければ、体験の場は、施策を促進するための制度とすれば有効だと思っておりますが、そのためにもそういった環境整備が必要ではないかと改めて感じております。

酒井（大）委員

- ・リソースの確保が必要だと思っておりますが、基幹相談支援センター等が確保する場所を活用し、となっておりますが、どのように確保できる見通しをお持ちなのか。来年度はどの程度の部屋を整備する予定なのか。例えばグループホームの大半のところは入居されている方がいらっしゃる訳で、この事業だけで部屋を空けておくことは難しいように思いますので、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。

山本障がい福祉課長代理

- ・この事業の立ち上げに際し、障がい者基幹相談支援センター等の関係機関とも話し合いをしており、障がい者基幹相談支援センターでは、部屋に炊事室やトイレがあり、事業所と別の入口から入っていただけたところもございます。また、利用してもよいとおっしゃっていただいたところは、一つだけでなく、複数あるとお聞きしております。合わせましてウィークリーマンションなどの活用についても検討していきたいと思っております。

酒井（大）委員

- ・もう少し見込みがあるのかと思いました。

三田（優）部会長

- ・ウィークリーマンションもありますし、活用出来るものは活用し、むしろグループホームじゃない方が私は良いと思います。

倉田委員

- ・4ページの面的な体制整備のイメージ図ですが、面的に表現もされていて、面的な表現の中に、体験の機会の場合や地域の体制づくりなどを点として表されています。その点と点を繋ぐ線の部分を具体的に誰が繋ぐのか、どこが繋ぐのかというところまでイメージで記載していただけると、具体的にどこがどうすれば良いかという具体策を討議できるように思いました。
- ・このイメージ図でイメージできるものが少ないので、先ほどの質問も生まれてくると思います。もう少し具体的に大阪市が把握している情報をイメージ図に加えていただけると、方向や施策について議論できるのではないかと思います。

山本障がい福祉課長代理

- ・このイメージ図は非常に簡素化した図になっており、ご指摘のとおり少し分かりにくい点があると思います。
- ・もう少し具体的なイメージが持てるような図を整理させていただければと思います。

井上委員

- ・具体的に一人暮らしのニーズがどの程度あり、体験ニーズがあるのか、いきなり家族から離れ、一人暮らしをするのを誰がサポートしていくのか、具体的な事業内容がもう少し明確でないと、部屋だけを与えるので、とりあえず、そこで二、三日住んでくださいみたいな事業ではどうなのかと思います。そのあたりのイメージがわかるような提案にいただければと思います。

三田（優） 部会長

- ・2ページ目の事業内容のところの一番初めの矢印ですが、地域移行が可能と考えられる施設入所者の部分がどうしても引っかかり、移行できる方がいないと入所施設がずっと言い続けていて、進んでいない部分があります。一生懸命行政が知恵を絞り、こういう事業を始めるなら、うちにはいません、あの人は無理と言っている施設を変えなければなりません。
- ・いい加減に考え方を変えてもらいたいというところであり、こういう風を書いてしまうことにより、言い訳を与えてしまう様な気がして、書き方を変えた方が良いのではないかと思います。

八木障がい福祉課長

- ・いきなり一人暮らしをしろという事業ではなく、グループホームの体験も選択できますし、これを体験したからといってすぐに一人暮らしをするとかではありません。例えば、ヘルパーと生活するとはどういうことかというイメージを掴んでもらうための体験と思

っておりますし、すぐさま1人で放り出そうという事業ではありません。今は、多数のニーズがあるとは思っていませんが、たくさんのニーズが無いから事業をしなくて良いということではなく、一つの選択肢として、選べることができるために作っておりますので、年間それほどの件数があるとは今のところ思っていません。

- ・部会長のご指摘のとおり、確かに地域移行が可能と考えられる、ここはポイントだと思います。顔の見える関係づくりで基幹や福祉局と一緒に施設に行ったりしております。こういった事業があり、地域移行の目標もある中で、可能性のある方をきちっと施設でもピックアップしていただけるような、そのためのツールとして、ご紹介していければと思っております。

三田（優）部会長

- ・目標のパーセントのためにやるのではないと思います。
- ・外に出ると、施設内と全く違った顔を見せる人もいますので、私はこれをやってみる価値があると思っております。

芦田委員

- ・この事業は意欲喚起ということですが、大阪市こころの健康センターが地域生活移行推進事業として進められてきた精神科病院からの退院の前に意欲喚起の事業を、施設からの移行においても実施するという事になったのかなと思います。
- ・ノウハウについては、大阪市こころの健康センターがこれまで努力しながら、前向きに取り組んでくださっているので、そこのノウハウをしっかりと貰っていただきたいと思います。
- ・それと基幹センターに委託となっておりますが、精神の方は地域活動支援センターの生活支援型だけではなくて、それも含めて手挙げ方式で相談支援事業所が広く対象になっております。基幹相談センターだけで良いのかと思います。
- ・基幹センターは業務も多く多忙だと思いますので、委託先については、もう少し考えていただければと思います。

三田（優）部会長

- ・長居障がい者スポーツセンターの建替えに関するアンケートの実施について、事務局からご説明をお願いします。

大谷企画調整担当課長

<その他 報告事項（3） 資料4 説明>

三田（優）部会長

- ・今のご説明にご質問・ご意見いかがでしょうか。

山梨委員

- ・長居障がい者スポーツセンターは、あの場所で建替えてもらいたい。皆の希望です。
- ・建替え場所について少し引っかかっており、その理由は、以前に長居障がい者スポーツセンターを廃止するとされた時に、色々なところと交渉しましたが、あの場所に別のものを建てるために廃止する計画があるという話を聞きました。
- ・このアンケート用紙を見ると、場所に関する項目が何もありません。
- ・質問項目とした場合、おそらく皆があ場所にしてくれとなり、現地で建替えせざるを得なくなることから記載がないのではと思っています。
- ・その他、長居障がい者スポーツセンターの建替え等に関して、ご意見があればお聞かせくださいの項目に、「場所は現地で」とは書かないと思いますがいかがでしょうか。

大谷企画調整担当課長

- ・場所につきましては、先日の市長答弁でもありましたが、長居公園内で一定検討しているところがございます。
- ・建替え場所は、先日の戦略会議の中でもありましたが、今ご利用されている方が途切れなく利用できることが非常に重要だと考えており、今の既存の場所をそのまま使いながら、長居公園のどこかの場所に建て替えできるような検討を進めていきたいと考えております。現状では具体的な場所をお示しすることはできませんが、現在、長居公園内で検討を進めておりますので、調査の中には入っておりません。

三田（優）部会長

- ・公園内であることは間違いないというのでしょうか。

大谷企画調整担当課長

- ・長居公園内で検討しています。

山梨委員

- ・長居という場所を変えてもらおうと困ります。
- ・また、どこにするのか分からないというのは気になります。
- ・実際には、もっと確実な回答が欲しいと思いますが、現地で建替えるのであれば、潰してから建てるので、1年か2年か期間が空いてしまいます。それでも良いのですかということにもなると思います。
- ・建替える場所は、現地の場所が本来の願いですので、できるだけそれに近い場所になるようお願いしたいと思います。

三田（優） 部会長

- ・山梨委員からこの件について毎回意見が出ており、議事録に残っておりますので、見守りたいと思います。
- ・では、障害者基本計画（第5次）骨格案等について事務局からご説明をお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<その他 報告事項（4） 資料5・6 説明>

三田（優） 部会長

- ・国からは、SDGsの理念を入れるなど、様々な項目が出ておりますが、ワーキングでも、話し合いができればと思っております。

八木障がい福祉課長

<閉会のあいさつ>